



観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



国際観光施設協会 ホテル都市分科会 委員
株構造計画研究所 すまいIoT推進部

川村 晃一郎



国際観光施設協会 ホテル都市分科会 委員
株構造計画研究所 すまいIoT推進部

岡田 佳也

はじめに

「宿泊施設におけるセキュリティ」という言葉を聞いたとき、皆さまはどのような仕組みやシステムを思い浮かべるのでしょうか。例えば、昔ながらの旅館やホテルに宿泊すると、フロントで銀色の「普通の鍵」を受け取り、それを使って自室を解錠することになります

し、大きなホテルではカードキーで解錠することもあります。このように、不特定多数の宿泊者が出入りする宿泊施設にとって、強固なセキュリティの構築が肝要であることは言うまでもありません。一方で、強固なセキュリティを導入しようとするれば、それ相応の投資額が必要になると共に、利便性が失われ融通が利かなくなるというデメリットも生じます。

セキュリティの強固さと利便性のトレードオフを解消する救世主として、IT技術の発展によって登場した「ネットワークキーシステム」が注目されるようになりました。今回はこの場をお借りし、近年宿泊業界で導入が盛んなネットワークキーシステムの概要と最新事例をご紹介します。

ネットワークキーシステムの概要

ネットワークキーシステムとは、「ネットワーク上で顧客情報と鍵情報を紐づけるシステム」です。先に紹介した銀色の鍵やカードキーは、フロントで渡されるもので、鍵自体はネットワークにはつながっていません。そのため、鍵そのものには「〇〇さんが使用している」という情報が書き込まれていないのです。一方で、ネットワークキーシステムでは、「この鍵は〇〇さんに対して有効である」という宿泊者情報を紐づけることが可能です。さらに、カードキー

だけでなくQRコードやオンライン発行の暗証番号など、さまざまな鍵を用意することが可能です。

この仕組みを応用すれば、「〇〇さんが何時にチェックインを行ない、何時に部屋に入ったのか」ということを宿泊施設の管理者が把握することができます。宿泊者にとっても、予約の時点で鍵をメールで受け取ることができたり、チェックイン時にフロントに行く手間が省けるなどの利点があります。近年宿泊業界を賑わせている民泊において、しばしば鍵の管理（宿泊者・清掃業者への受け渡しや紛失防止）が問題になりますが、物理的な鍵を廃してネットワークキーに置き換えてしまえば、問題解決への道が開けてきます。

次項より、事例をご紹介します。

事例1・QRコード式

最初に取り上げるのは、QRコード式のネットワークキーです。飛行機のチェックインと同様に、予約時に宿泊者に解錠用のQRコードが届き、そのQRコードを使って部屋を解錠します。この方式は、新宿ワシントンホテルや相鉄ホテル、アパホテル等で採用されています。

以下に示す画像は、QRコード式ネットワークキーの例で、宿泊施設ではありませんが、JR東日本が実証実験中のSTATION WORKで採用されている

ホテルの安全・安心33 宿泊施設におけるセキュリティ

国際観光施設協会 ホテル都市分科会 委員
（株）構造計画研究所 すまいIoT推進部

川村 晃一郎、岡田 佳也



JR 東日本が実証実験中の STATION WORK、キー読み取り部分

ものです。STATION WORK も、オンライン上で予約を行ない、登録済みのメールアドレス宛に解錠用の QR コードが送られる仕組みを採用しています。

事例 2・暗証番号式

QR コードが暗証番号になったものが、暗証番号式です。予約時に届くのが QR コードではなく暗証番号で、この暗証番号を入力してドアを解錠します。番号さえ知っていればよいので、手ぶらでも解錠することができます。QR コードのリーダーが不要なため低価格で導入でき、主に民泊を中心に導入が広がっています。また、自動チェックインシステムを組合せてホテルにも導入が広がっています。

事例 3・顔認証式

ハウステンボスで開業した「変なホテル」が大きな注目を集めました、

このホテルで採用されているのが顔認証式です。チェックイン時に宿泊者の顔を登録すれば、顔自体が鍵になるという仕組みです。昔、ゲームで「敵兵士を拘束し顔を近づけて認証させ、セキュリティエリアに侵入する」というものがありましたが、その世界が実世界に投影された、ネットワークキーの走りと言えるでしょう。

自社が提供する付加価値やオペレーションに相応しいキーシステムの選択

世の中にはさまざまなキーシステムが存在しますが、高価あるいは最新のキーシステムを導入すれば良いという訳ではありません。例えば、中価格帯でビジネス展開している宿泊施設における、全自動チェックイン・チェックアウト機能や宴会管理、従業員の勤怠管理なども包含した高機能なシステムの導入は、過剰な投資となる可能性があります。とりわけ民泊においては、より簡素な仕組みで十分であると言えるでしょう。また、対面接客を重視する高価格帯宿泊施設において、省力化を目的とした全自動チェックイン・チェックアウトシステムを導入しても、かえって宿泊施設の「ウリ」を喪失してしまうだけとなってしまいます。

今回の記事が、各ホテルが提供する付加価値やオペレーションに相応しいキーシステムを考えるキッカケになれば幸いです。



暗証番号式のネットワークキー（㈱おおきにホテルズ様）